

平成27年度 地域活性化に向けた協働取組の加速化事業

(リユースびん普及を通じた地産地消ビジネスモデル構築  
プロジェクト)

業務成果報告書

平成28年 3月11日

特定非営利活動法人  
中部リサイクル運動市民の会  
代表理事 永田 秀和

# 目次

## 1.業務概要

---

1.1	業務の目的	3
1.2	業務の内容	3
1.3	事業実施期間	4

## 2.実施体制

---

2.1	経緯	4
2.2	活動趣旨	4
2.3	構成及びその役割	5

## 3.事業実施の概要

---

3.1	協議会等の設置・開催	5
3.2	協働取組カレンダーの作成	6
3.3	取組の実施	6

## 4.評価・分析

---

4.1	事業評価	13
4.2	協働取組の促進要因と阻害要因	16

## 5.総括

---

5.1	成果	17
5.2	課題・改善点	18
5.3	今後の展望	19

## 6.添付資料

---

- (1) 協議会記録……………添付資料 1……………20
- (2) 協働取組カレンダー……………添付資料 2……………26
- (3) 定例会記録……………添付資料 3……………28
- (4) 地域経済活性化モデル……………添付資料 4……………51
- (5) 広報検討会議記録……………添付資料 5……………64
- (6) ポスター等広報ツール
  - ア. サガミ津島江川店ポスター……………添付資料 6-1……………70
  - イ. サガミ津島江川店メニュー表……………添付資料 6-2……………72
  - ウ. サガミ津島江川店首掛けポップ……………添付資料 6-3……………74
  - エ. あいそ家津島店ポスター……………添付資料 6-4……………75
  - オ. あいそ家津島店メニュー表……………添付資料 6-5……………77
  - カ. あいそ家津島店首掛けポップ……………添付資料 6-6……………79
  - キ. 三つ折パンフレット……………添付資料 6-7……………80
  - ク. オープンマーケット用ポスター……………添付資料 6-8……………82
- (7) 各種イベント写真……………添付資料 7……………83
- (8) 見学会・勉強会……………添付資料 8……………84
- (9) 月次報告……………添付資料 9……………92
- (10) 中期計画シート……………添付資料 10……………100
- (11) 連絡会資料……………添付資料 11……………102
- (12) 報告会資料……………添付資料 12……………107

# 1. 業務概要

---

## 1.1 業務の目的

地域における課題解決や地域活性化の上で重要な役割を果たしている地域の各主体の活動を支援するため、中間支援組織の体制強化や地域における協力・連携体制の整備等を促進することが重要である。

このため、民間団体、企業、自治体等の異なる主体による協働取組を実証するとともに、中部環境パートナーシップオフィスが設置する「地方支援事務局」の助言を受けつつ、協働取組の過程等を明らかにし、協働取組を加速化していく上での様々な手法や留意事項等を、協働取組を行おうとする者の参考資料として共有することを目的とする。

## 1.2 業務の内容

- ア. 協議会の設置・開催(全2回)
- イ. 協働取組カレンダーの作成
- ウ. 定例会の開催(全8回)
- エ. リユースによる地域経済活性化モデルの提示
- オ. 地域モデルの構築
- カ. 名古屋市第五次一般廃棄物処理基本計画に対するリユース施策の提示
- キ. 広報検討会の開催
- ク. 各種イベントへの参加(全4回)
- ケ. 見学会及び勉強会の実施(全3回)
- コ. 地方支援事務局への月次報告等
- サ. 3ヵ年の中期計画等の策定
- シ. 連絡会、報告会への参加(全3回)
- ス. 業務成果報告書の作成

## 1.3 事業実施期間

・平成 27 年 6 月 30 日～平成 28 年 3 月 11 日

## 2. 実施体制

---

### 2.1 経緯

- ・名古屋市の第四次一般廃棄物処理基本計画策定にあたり、大学・市民・企業・行政・NPO の連携によるリユースびんの普及を目的としたプロジェクトチームとして 2008 年に「なごや環境大学循環型社会推進チーム・リユースびんプロジェクト」として発足した。
- ・昨年度実施した、地域活性化に向けた協働取組加速化事業(リユースびんを活用し循環型社会を構築する「めぐる」プロジェクト)で構築した協働体制をベースとし、継続事業として今年度も実施する。

### 2.2 活動趣旨

この地域の課題として、ごみの最終処分場の逼迫や、個別リサイクル法の施行により、市民によるリサイクル活動はある程度定着したが、3R で優先されるべきリユース活動に対する市民の意識啓発活動が充分になされていない点がある。

また、市民がリユース活動を実践するための社会システムも脆弱である点が挙げられる。

本プロジェクトでは、平成 26 年度に実施した「リユースびんを活用し循環型社会を構築する「めぐる」プロジェクト」を発展させ、この地域に広めるための政策について名古屋市と協議するとともに、クローズドマーケットでの仕組みの拡大に加え、新たにオープンマーケットでのリユースびん普及モデルの構築を目指す。

## 2.3 構成及びその役割

氏名	所属	本事業における役割
松野正太郎	名古屋大学大学院環境学研究科	プロジェクトリーダー(全体統括)
永田秀和	NPO 法人中部リサイクル運動市民の会	プロジェクト責任者(事務局)
鬼頭秀一	名古屋市環境局減量推進室	政策提言チーム
伊藤直起	名古屋市環境局減量推進室	政策提言チーム
所美由紀	名古屋市環境局減量推進室	政策提言チーム
神下豊	市民(リユースプロジェクト「めぐる」)	政策提言チーム
木全幹夫	市民(リユースプロジェクト「めぐる」)	政策提言チーム
櫻間依利子	市民(リユースプロジェクト「めぐる」)	政策提言チーム
星野和平	プロボノ	プロモーションチーム
田中克典	プロボノ	プロモーションチーム
水谷政夫	(株)水谷酒造	プロモーションチーム
餌取英樹	(株)リバイブ(おかえりやさいプロジェクト)	プロモーションチーム
笠原尚志	(株)中西	プロモーションチーム
小島英一郎	(株)小島良太郎商店	プロモーションチーム
安田一機	(株)安田商店	プロモーションチーム
村平美智代	(株)熊本清掃社	協働堆肥化事業者
大富勉	(株)サガミフード	協働飲食事業者

## 3. 事業実施の概要

---

### 3.1 協議会等の設置・開催

本事業の目的及び目標を、本事業に係る協働取組関係者間で共有し、協働取組関係者の役割及び具体的実施方法の協議等を行うため、協働取組関係者による協議会を設置し、開催した。

(全 2 回) (添付資料 1 参照)

開催回数	開催年月日	検討事項
第 1 回	平成 27 年 8 月 28 日(金)	<ul style="list-style-type: none"><li>・今年度の取組内容について</li><li>・名古屋市第五次一般廃棄物処理基本計画への提案について</li><li>・クローズドマーケットでの仕組について</li></ul>
第 2 回	平成 28 年 2 月 1 日(月)	<ul style="list-style-type: none"><li>・(株)サガミフードとの協働の進捗について</li><li>・名古屋市第五次一般廃棄物処理基本計画策定の進捗について</li><li>・経済モデルの内容等について</li></ul>

### 3.2 協働取組カレンダーの作成

中部地方環境事務所、地方支援事務局、協働関係者等が、目的、目標及び課題解決のための行動計画を共有するため、協働取組カレンダーを作成した。(添付資料 2 参照)

### 3.3 取組の実施

協働取組関係者間での情報共有と方向性等の確認のために、以下のとおり定例会を開催した。

#### (1) 定例会の実施 (全 8 回) (添付資料 3 参照)

開催回数	開催年月日	検討事項
第 1 回	平成 27 年 7 月 27 日(月)	<ul style="list-style-type: none"><li>・今年度取組内容について</li><li>・(株)サガミフードとの連携拡大について</li><li>・名古屋市第五次一般廃棄物処理基本計画について</li></ul>
第 2 回	平成 27 年 8 月 31 日(月)	<ul style="list-style-type: none"><li>・(株)サガミフードとの連携拡大について</li><li>・名古屋市第五次一般廃棄物処理基本計画について</li><li>・シンポジウムの開催企画について</li><li>・環境デーなごや 2015 について</li><li>・フェアトレードタウン名古屋祝賀会について</li></ul>
第 3 回	平成 27 年 9 月 17 日(木)	<ul style="list-style-type: none"><li>・(株)サガミフードとの連携拡大について</li><li>・環境デーなごや 2015 について</li><li>・地域経済活性化モデルについて</li><li>・シンポジウム開催について</li></ul>

第4回	平成27年10月5日(月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(株)サガミフードとの連携拡大について</li> <li>・環境デーなごや2015について</li> <li>・地域経済活性化モデルについて</li> </ul>
第5回	平成27年11月9日(月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(株)サガミフードとの連携拡大について</li> <li>・めぐる仕込み体験企画について</li> <li>・オープンマーケットの仕組みについて</li> <li>・見学会企画について</li> </ul>
第6回	平成27年12月3日(木)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・名古屋市第五次一般廃棄物処理基本計画について</li> <li>・オープンマーケットの仕組みについて</li> <li>・見学会企画について</li> <li>・名鉄ハイキング企画について</li> </ul>
第7回	平成28年1月7日(木)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オープンマーケットの仕組みについて</li> <li>・見学会企画について</li> <li>・名鉄ハイキング企画について</li> </ul>
第8回	平成28年2月18日(木)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オープンマーケットの仕組みについて</li> <li>・地域経済活性化モデルについて</li> <li>・報告書作成について</li> <li>・来年度以降の進め方について</li> </ul>

## (2) リユースによる地域経済活性化モデルの提示

めぐるプロジェクトによる愛知県内への経済効果(生産波及効果と雇用創出効果)を推計するため、産業関連分析を行った。

今回の分析では、2つのケースについて推計した。

ケース1では、めぐるの生産・供給に対する各事業者の経済効果及び雇用効果を分析した。

ケース2では、愛知県内のサガミチェーン44店舗でめぐるを販売するため供給網をつくる場合の適正な経済圏を測定し、その中での経済効果及び雇用効果を分析した

なお、経済学専門家による分析結果については、添付資料4参照。

### ア. 経済モデル検討会の開催(全2回)(添付資料3-3・3-4参照)

協働関係者が集まる定例会において、経済学専門家をゲストとして招き、経済モデルの全体像についての検討を行った。



開催回数	開催年月日	検討事項	メンバー
第1回	平成27年9月17日(木) (第3回定例会内)	・最適な経済圏について ・経済モデルの全体像について	ステークホルダー
第2回	平成27年10月5日(月) (第4回定例会内)	・経済モデル算出のための前提条件等について ・ステークホルダーへのヒアリングについて	ステークホルダー

#### イ. 経済モデル内容等の検討会の開催（全5回）

第1回～第3回（添付資料4-2～4-4参照） 第4回（添付資料1-2参照）

第5回（添付資料3-8参照）

経済専門家を中心とし、コアメンバー等による経済モデルの詳細に関する内容等の検討を行った。

開催回数	開催年月日	検討事項	メンバー
第1回	平成27年8月31日(木)	・今年度事業の内容について ・昨年度の反省点について ・経済モデルのイメージについて	渡邊聡 松野正太郎 永田秀和
第2回	平成27年12月7日(月)	・産業関連表の活用について ・経済エリアについて	渡邊聡 松野正太郎 永田秀和
第3回	平成27年12月21日(月)	・経済モデル考え方について ・ステークホルダーへの依頼内容について	渡邊聡 餌取英樹 小島英一郎 永田秀和
第4回	平成28年2月1日(月) (第2回協議会内)	・進捗について	ステークホルダー
第5回	平成28年2月18日(木) (第8回定例会内)	・進捗について ・ベースデータの入手状況について	ステークホルダー

### (3) 地域モデルの構築

より幅広い消費者の参加を促すため、既存のオープンマーケットにおいて流通しているリユース容器入り商品(地酒)のPRと、この地域で継続的に実施でき

る空き容器回収モデルの構築について、市内の酒造業者及び酒小売事業者と意見交換し、回収モデルを構築した。(添付資料 11-2、6 ページ参照)

#### ア. 酒造業者への働きかけ

- ・名古屋市を中心に「日本酒文化の発信」をすることを目的に結成されたグループ「ナゴヤクラウド」を構成する、金虎酒造(名古屋市北区)、山盛酒造(名古屋市緑区)、神の井酒造(名古屋市緑区)、東春酒造(名古屋市守山区)への協働取組への参加の働きかけを行った。
- ・金虎酒造、山盛酒造、神の井酒造との連携が実現した。
- ・東春酒造では、主に新びんが使用されており、担当者レベルでは本取組に対して理解を得ることができたが、社内的な合意までは得られなかったため協働取組への参加は得られなかった。今後も引き続き関係構築を進めたい。

#### イ. 酒小売事業者への働きかけ

- ・これまで「めぐるプロジェクト」等で本取組の趣旨に賛同している「みのや北村酒店」(名古屋市東区)を中心に、収集効率効果の望める同地域の酒小売事業者への協働取組への参加の働きかけを行った。
- ・みのや北村酒店、岡田屋、吉田屋、ファミリーマート東片端店(佐々酒店)への働きかけを行い、みのや北村酒店、岡田屋との協働が実現した。なお、他店は本取組の趣旨には賛同いただけしたが、回収したリユースびんの保管場所の確保が困難等の理由のため、協働取組への参加は実現しなかった。今後も引き続き関係構築を進めたい。

#### ウ. 外食事業者への働きかけ

- ・昨年度構築した(株)サガミフードとの協働をベースに、「めぐる」販売を活用したクロードマーケットでのびんリユースの仕組みの拡大を図った。
- ・昨年度実験的に「めぐる」の販売及び空きびんリユースに協力いただいた「さがみ庭御器所店」「盛賀美桜通り本町店」に加え、新たに「サガミ津島江川店」、及びサガミグループのあいそ家全店(全9店舗)への働きかけを行った。
- ・「サガミ津島江川店」では平成27年9月より、商業ベースとしての継続的な取り扱いが実現した。
- ・あいそ家では、全店舗の店長が集まる店長会議において、本事業のプレゼンを行い、事業の趣旨に理解を得ることができ、協働の第一歩として「あいそ家津島店」での取り扱いが実現した。

**(4) 名古屋市第5次一般廃棄物処理基本計画に対するリユース施策提示**  
(添付資料 11-2 参照)

- ・昨年度実現した㈱サガミフードとの協働のもと、リユースびんの循環システムの試行実施に至るなどの成果をあげたこと等が評価され、本事業への名古屋市環境局の継続的な参加、協議を重ねた結果、協働の成果として第4次一般廃棄物処理基本計画策定時には、「名古屋ルール運動」のルール作りの場としての位置づけであった当プロジェクトの取組が、第5次一般廃棄物処理基本計画の中に施策として位置づけられることとなった。
- ・名古屋市では、今年度末の公表を目指している、「第5次一般廃棄物処理基本計画」の中で、さらなるごみ減量をめざし、名古屋の財産である市民・事業者との協働をベースに、リデュース・リユースに重点を置いたごみ減量の取組を進めることとしている。

### (5) 広報検討会の開催（全3回）（添付資料5参照）

本事業の目的、取組等の周知を効率的・効果的に行うために、広報専門家を中心とし、コアメンバーによる広報の検討を行った。

開催回数	開催年月日	検討事項	メンバー
第1回	平成27年11月12日(木)	・オープンマーケットの仕組みについて	広瀬由利子 星野和平 永田秀和
第2回	平成27年11月26日(月)	・名鉄ハイキングでの広報について ・見学会について ・オープンマーケットの仕組みについて	広瀬由利子 星野和平 永田秀和
第3回	平成27年12月10日(月)	・オープンマーケットの仕組みについて ・見学会について	広瀬由利子 松野正太郎 星野和平 永田秀和

### (6) ポスター等広報ツールの作成（添付資料6参照）

消費者へのリユース等循環の仕組の周知のために、以下のツールの作成を行った。

#### ア. サガミ津島江川店向け広報ツールの作成

内容	サイズ等	作成枚数
店舗掲示用ポスター(2種類)	B1 カラー	2枚
テーブルメニュー表	B5・カラー・両面・パウチ	40枚
首掛けポップ	R マークびん 300ml容量用・カラー	100枚

イ. あいそ家津島店向け広報ツールの作成

内容	サイズ等	作成枚数
店舗掲示用ポスター(2種類)	B1 カラー	2枚
テーブルメニュー表	A4・カラー・両面・パウチ	40枚
首掛けポップ	R マークびん 300ml容量用・カラー	100枚

ウ. 主にイベント(3.3(5)(イ)参照)で市民に配布するための三つ折パンフレット(昨年度作成)の増刷(3,000部)

エ. オープンマーケットモデルをPRするためのポスターの作成

(7) 各種イベントの開催(全5回)(添付資料7参照)

より多くの消費者等に本取組の周知を図るため、以下のイベントに参加し、普及活動を行った。

開催年月日	イベント名	主催者及び会場	実施内容
平成27年 9月19日	環境デーなごや2015	環境デーなごや 実行委員会 @久屋大通公園	リユースびん入り商品(清涼飲料水等)の紹介及び販売、容器回収 パンフレットの配布
平成27年 9月19日	国際フェアトレードタウン名古屋誕生祝賀PARTY	フェアトレード名古屋 ネットワーク FTNN @ウエスティンナゴヤキャッスル	パンフレットの配布 めぐる紹介
平成27年 9月20日	愛知県物産展	愛知県商工会連合会 @金山総合駅コンコース	パンフレットの配布 めぐる販売
平成27年 10月6・7日	ニッポンを飲もう、日本の酒キャンペーン	日本酒造組合中央会 中部国際空港(株) @中部国際空港	パンフレットの配布 めぐる販売
平成28年 1月17日	名鉄ハイキング	名古屋鉄道株式会社 @水谷酒造	パンフレットの配布 めぐる試飲

(8) 現地見学・勉強会の実施 (添付資料8参照)

ア. 新たに本取組に参加する主体等の理解を深めるため、本取組に関連する講座及び関係施設(1カ所)の実施

【目的】「めぐる」の取り組みに対する理解を深めてもらう場を提供する

【対象】一般市民及びステークホルダー

【開催場所】水谷酒造株

開催回数	開催年月日	内容	参加者数
第1回	平成27年11月14日	酒蔵での仕込み体験	5名(ステークホルダー)
第2回	平成27年11月15日	酒蔵での仕込み体験	4名(ステークホルダー)

イ. リユース・リサイクルの啓蒙活動として、貸切バスを利用し関連施設（複数カ所）を見学する日帰りツアーの実施

【目的】本プロジェクトに関連する施設を見学することで「びんのリユース」「企業の地産地消の取組」などに関する学びの場を提供する

【対象】一般市民及びステークホルダー

【開催場所】安田商店、水谷酒造、サガミチェーン(津島江川店)、道の駅(立田)

開催年月日	内容	参加者数
平成27年1月30日	リユース関連施設バス見学会	38名

(9) 地方支援事務局への月次報告等

- ・毎月定期的に月次報告を行った。(添付資料9参照)
- ・取組の実施にあたり、進捗状況の共有のための打合せを適宜行った。
- ・イベント開催時における広報面でのサポートをしていただいた。

(10) 3ヵ年の中期計画等の策定

- ・平成28年2月6日(土)に開催された、報告会への事前提出資料として、中期計画を作成し、提出した。(添付資料10参照)

(11) 連絡会・報告会への参加

ア. 連絡会への参加(全2回)(添付資料11参照)

- ・課題の共有、事業の進捗の確認等のため、地方支援事務局が開催する連絡会に参加した。

開催回数	開催年月日	内容	主催者	開催場所	参加者
第1回	平成27年7月3日	・採択団体活動報告 ・意見交換会	地方支援事務局	環境省中部地方事務所	松野正太郎 伊藤直起 永田秀和

第 2 回	平成 28 年 1 月 22 日	・採択団体活動進捗報告 ・意見交換会	地方支援 事務局	ウインクあいち	松野正太郎 伊藤直起 永田秀和
-------	---------------------	-----------------------	-------------	---------	-----------------------

#### イ. 報告会への参加（全 1 回）（添付資料 12 参照）

- ・本事業における全国の関係者が東京に集まって開催される報告会に参加し、本事業の成果と 3 ヶ年の中期計画等の発表・共有を行った。

開催年月日	内容	主催者	開催場所	参加者
平成 28 年 2 月 6 日	・成果報告 ・ワークショップの開催	全国支援 事務局	ベルサール西新宿	松野正太郎 永田秀和

## 4. 評価・分析

---

### 4.1 事業評価

#### ア. 効率性

- ・名古屋市の第 4 次一般廃棄物処理基本計画における、大学・市民・企業・行政・NPO の連携によるリユースびん普及プロジェクトの一環として 2008 年からの継続プロジェクトとしての実績が評価され、名古屋市環境局の本取組への参画を得て、協議を行った結果、名古屋市の第 5 次一般廃棄物処理基本計画におけるリユース施策の一つとして本取組が位置づけられることとなった。
- ・クローズドマーケットによる取り組みに関しては、昨年度既に㈱サガミフードとの協働が実現していたため、効率的に協力店舗の拡大及びグループ店舗への拡大を実現することができた。

#### イ. 効果/目標達成度

- ・名古屋市の第 5 次一般廃棄物処理基本計画の中に施策として位置づけられた。
- ・クローズドマーケットにおいては、㈱サガミフードとの継続的な協働により、新たに 2 店舗の協力店舗拡大が実現し、商業ベースでの取組モデルを構築した。

- ・マクロ経済モデルを用いた試算により、この地域における雇用創出及び経済波及効果を定量的に試算することができた。このことにより、本取組実施による、経済効果の想定を立証することができた。

## ウ. 計画妥当性

- ・昨年度からの継続事業であったため、課題及び対策が明確であり、概ね当初の計画通り進めることができ、想定された名古屋市のごみ処理計画への掲載、地域モデルの構築、経済分析の実施等の成果を得ることができた。
- ・協働カレンダーに従って事業を実施したが、特にオープンマーケットの回収システム構築においては、地酒販売と空き容器回収の拠点となる酒小売事業者との情報共有により、当初想定していなかった酒小売事業者が抱える課題を整理することができ、この地域での最適な回収モデルについて現状に則した検討を重ねることができた。

## エ. 関係主体の巻き込み度

- ・オープンマーケットでは、新たに名古屋市内の酒造事業者 3 社と酒小売事業者 2 者の取組への参加が実現したことにより、仕組みの面的な拡大を図ることができた。
- ・クローズドマーケットでは、(株)サガミフードとの協働の取組において、昨年度は期間限定かつ実験的な取組に留まったが、今年度は通年的な取扱いとしての商業ベースにおける事業の可否を検討いただき、「サガミ津島江川店」と「あいそ家津島店」の 2 店舗での実施が決まり、協働関係を構築することができた。
- ・経済分析による適正な商圈や経済効果を示すことができたことにより、新たな飲食事業など、より多くのステークホルダーの巻き込みの可能性ができた。

## オ. 関係主体の満足度

- ・バスツアーに参加した市民においては、リユースの現状についてこれまで知る機会がなかったが、ツアーに参加したことでリユースびんに関する課題や現状を学ぶことができ、今後も同様の企画に参加したいということがアンケート結果から示唆され、市民のリユースびんに対するニーズの掘り起こしができた。
- ・一般市民向けの啓発に関しては、名鉄ハイキング企画や愛知県物産展等のイベントを通じ、地産地消・びんリユースについて広報することができ、多くの市民の共感を得ることができた。

- ・名古屋市においては、第5次一般廃棄物処理基本計画においてリユース施策の一つとして位置づけられ、2Rの推進が図られることとなり、本取組の活動の推進が可能となった。
- ・本取組に参画した酒造事業者においては、自社の製品に対する環境配慮について、消費者へのPRをすることが可能となり自社の環境ブランディングに繋げることができた。
- ・本取組に参画した酒小売事業者においては、更なる顧客サービスの充実を図るため自社で販売した商品のリユースびん引き取りを積極に行う地域展開の仕組みができた。

## カ. 社会的インパクト

- ・名古屋市との継続的な協働の成果として、第5次一般廃棄物処理基本計画に本取組をモデルとしたリユースびん普及のための施策が盛り込まれることとなった。このことにより、今後びんリユースの取組の推進にあたっては、自治体との更なる協働による加速度的な推進が期待できる。
- ・㈱サガミフードとの継続的な協働関係の確立により、「めぐる」の販売店舗の拡大が実現したことで、多くの顧客に対し飲食事業者が主体となって本取組を知らせることができ、市民への広報の場及び接点が拡大される。
- ・本事業でのめぐるを使用したリユースびんの取組モデルを愛知県で推進した場合の雇用創出効果は、今回初めて算出されたものであり、地産地消及びリユースの統合がもたらす経済的インパクトを示すことができた。

## キ. 自立性

- ・これまで実験的な取組の域を出なかったが、それぞれのステークホルダーの本業にびんリユースの仕組みを結びつける取組姿勢が強化され、ステークホルダーのビジネスモデルの中に、びんリユースの仕組みが位置づけられるようになった。具体的には、リユースびんの仕組みを作るうえで懸案となっているびんの回収について、食材の運搬と連携したびん回収の仕組みの構築によりそれが可能となった。



## 4.2 協働取組の促進要因と阻害要因

### ア. 促進要因

- びんのリユースを確実なものとするため、飲食事業者で使用するびんを対象(クローズドマーケット)とし、飲料製造事業者から回収を担うびん商までが、本協働取組のステークホルダーとして参加したことで、リユースびん循環の仕組み作りについて共通のルールを定める態勢が整ってきている。
- 本協働取組に参加することで、名古屋市において、びんリユースが施策として位置づけられた。
- 本プロジェクトでは、リユースびん循環システムの構築を目的として、多くのステークホルダーが関わっており、取組の目的だけでなく、結果に至る過程まで評価され、第5次一般廃棄物処理基本計画において本取組をモデルとした施策が記載されることとなった。
- 環境に配慮された「リユース容器」「地産地消商品」アイテムの普及が、ステークホルダーの本業の利益拡大及び顧客の確保に直結し、またこれらの取組がビジネスモデルの中で利益を生むことが理解されてきたため協働が促進された。
- (株)サガミフードとの協働において、昨年度からの継続的な取組を図れる関係性ができたため、本取組が地域ぐるみで解決すべき課題である点についての理解が深まった。その結果、新たな協力店舗拡大の提案に対して、商業ベースのみでの判断ではなく地域貢献という点にも重点を置いた判断をしていただけるようになり、コミュニケーションが容易になった。
- 多様なステークホルダーによる協働体制を作ることで、(株)サガミフードにおいて本部の経営陣だけでなく、店長レベルにまで本取組に対する理解の輪を広げることが可能となった。
- 既にリユースびんを使用した商品を手がけていた酒蔵と、リユースに関心を持っていた名古屋市内の酒小売事業者との連携ができたことで、協働取組に広がりが生まれた。
- 名鉄ハイキングイベントやバスツアーなどのイベントを通じ、普段の活動では接することのできない多くの市民のみなさんとの接点が得られ、参加した市民のみなさんには楽しみながら本取組に対する理解を得られることができた。
- 地方支援事務局による協議会や定例会での助言、各ステークホルダーへのヒアリング等による取組内容の深堀により、第三者的な意見をきくことができ、協働全体の課題をうきぼりにすることができた。

## イ. 阻害要因

- ・オープンマーケットにおいては、びん商によるリユースびん買い取り価格が、1本当たり3～5円であり、リユースびんは経済的メリットに比べ、酒小売事業者が店頭で行う空きびん回収の実務的な負担の方が大きいことが判明した。特に多種類の商品を扱う大型店舗ほど関係構築が困難であった。
- ・コンビニエンスストア形態の酒販店においては、建物の設計段階で、できるだけ売り場面積を確保することが求められ、敷地内における倉庫スペースをできる限り小さくすることに重点が置かれている。そのため、返却された容器を一定期間保管するスペースの確保が難しいということがわかった。
- ・今年度の取組みにより、Rマークびん以外にもこの地域の酒蔵でリユースされているびんが多くあることがわかった。ただ、Rマークびんのようにびん本体に目印となる表示があるわけではなく、びんを返却する市民やびんを店頭で回収する酒小売事業者にとってリユース可能なびんの種類の判別が困難であることがわかった。
- ・酒造事業者においてリユースびんの使用は、新びん価格との比較によるコストメリットによる選択であり、リユースびんは主に低価格帯の商品に使用されている。リユースびんを使用することで商品イメージが落ちるという感覚を持っている酒造事業者が多く、吟醸酒といった高付加価値商品にはワンウェイの新びんが使用されている。その結果として、同じ容量でも多様なびんが流通することとなり、リユースびんの判別が困難な状況を生み出している。

## 5. 総括

---

### 5.1 成果

本事業は、平成26年度に実施した「リユースびんを活用し循環型社会を構築する「めぐる」プロジェクト」を発展させ、地産地消産品とびんリユースとを融合させ、リユース容器の流通・回収システムの構築とそれによる地域経済の活性化を目指すことを目的としていた。具体的には、①びんリユース推進のための政策について名古屋市と協議し提案すること、②クローズドマーケットにおけるびんリユースの仕組みを拡大すること、③オープンマーケットにおけるリユースびん普及モデルの構築を行うことであった。

①については、名古屋市環境局とこれまでの取組の内容と成果を共有し、同時に名古屋市が抱える廃棄物減量に関する課題について意見交換を行い、これに基づいて、全市的に取組ことが可能であるびんリユースの仕組みについて検討を続けてきた。これらの結果として、名古屋市第

5 次一般廃棄物処理基本計画において、更なるごみ減量取組の中にリユースびんの推進が施策として位置づけられることとなった。これは、本プロジェクトチームのこれまでの活動実績が認められたこともあるが、ごみ処理量が横ばいの状態にある同市にあって、重要な取組課題として認識されたことがその要因として大きい。びんリユースの取組は、名古屋市の施策の一つとして進められることとなり、本活動の推進の正統性が確保されることとなった。

②については、㈱サガミフードによる本取組に対する理解が深まったことにより、関係性が深化し、昨年度の実験的(期間限定)取組から、本業につながる取組として「めぐる」の取り扱いが広まり、回収システムの検討が進むこととなった。この結果、新たに2店舗での商業ベースでの販売が継続するとともに、新規の取扱店舗が確保されることとなった。

③については、新たに「ナゴヤクラウド」という複数の地元酒蔵及び酒小売業者との連携取組団体との協働が実現したことにより、同酒造よりリユースびんを使用した日本酒が供給されることとなった。また、名古屋市東区を中心とした酒販店においてリユースびんが回収されることとなり、びんリユースのループが地域的には限定されてはいるが、構築されることとなった。十分な成果が得られるほどの時間的な経過を見ていないが、このことによりオープンマーケットにおけるリユースびん入り地酒の普及と、空きびん回収の仕組みが構築され、より幅広い市民との接点を持つ機会を得ることにつながった。

また、経済学専門家による本事業の経済分析を実施したことで、本事業で取り組んだ地産地消とびんリユースの融合取組である「めぐる」モデルの普及によりもたらされる、この地域における雇用創出効果、地域経済活性化効果および関連業種への波及効果について数値化することができた。これまでは、びんリユースに関する定性的なデータについてのみを提示出来るに留まっていたが、経済効果について、地域は限定的ではあるものの示すことができるようになり、新たなステークホルダーへの説明に客観的価値を付与することが可能となった。さらに、昨年を引き続き、今年度もびんリユース等関連施設の見学会を実施し、参加者からはリユースに関する理解が深まったこと、日常生活でリユースを实践しようという意識を醸成できたこと等の効果が得られたことから、今後も継続的に同様の広報を実施していくことで、市民の関心を高める必要がある。

## 5.2 課題・改善点

今年度の事業結果を踏まえた今後の課題・改善点では、特にびんリユースのオープンマーケットにおける展開について、リユースびんの回収窓口となる酒小売事業者に大きな労力的な負担(びんの選別、びんの保管等)がかかるため、酒小売事業者の実務的実現可能性の高いシンプルな仕組みの構築が挙げられる。そのためには、今年度構築した仕組みについて、より多くの関連事業者等と意見交換等を行って改善していく必要がある。

現状では、地域の酒蔵が使用しているびんは、同じ容量であってもびん形がわずかに異なっているケースもあり、規格の統一化は図られていない。事業者ごとで、びんリユースは行われているが、規格が異なるため、他事業者間での融通が難しい。当面、びんリユースの裾野を拡大するため、多くの種類のびんをリユースびんとして認定する等することが必要であるが、将来的には、この地域の共通びんとして統一していくことが必要であると考えられる。そのためには、地元の酒蔵と、

その商品を販売し空き容器を回収する地元の酒販店との関係づくりが重要だと考えている。このプロセスを通じ、びんリユースに関する協働が推進され、課題が明らかになるに伴い、その協働が加速化するものと考えられる。まずは、協働のためのフレームワークづくりが重要である。

### 5.3 今後の展望

今後の展望としては、以下の諸点が挙げられる。

第一に、名古屋市第五次一般廃棄物処理基本計画の中にびんリユースの推進取組が位置づけられたため、あまねく市民が取り組むことができ、他地域へ波及させられるようなリユースの具体的な施策の検討・提案を行い、アンテナプロジェクトを引き続き積極的に実施していく必要がある。

第二に、今年度の事業により加速度的に進展した㈱サガミフードとの連携については、店舗拡大等の面的拡大を更に進めるとともに、ニーズに合わせた新たなリユースびん入り商品の企画開発等、協働関係の深化をも同時に進めていく必要がある。それには、酒造事業者を中心とした関係メンバーとの継続的な意見交換の場等を設ける必要がある。

第三に、オープンマーケットにおけるリユースびん回収システムを構築するためには、特に酒小売事業者が参加しやすい仕組みにする必要がある。今回協働が実現した酒小売事業者は基より、協働が実現しなかった酒小売事業者においても、本取組の趣旨には賛同いただいております、仕組みの改善が実現できれば協働に参画いただける事業者は多いことは明らかになっている。そのためには、現在は酒蔵ごとに使用されているびんの規格が異なっているが、これを将来的に統一することが必要であると考えられる。多くのステークホルダーが介在し、また商品の差別化等の課題はあるが、今後、酒蔵間及び酒蔵と酒小売事業者間のコミュニケーションを密にとり、この地域ならではのオープンマーケットリユースびん回収システムの構築を図る必要がある。

第四に、雇用創出効果と地域活性化効果をマクロ経済モデルにより、地域は限定されるが可視化することができた。今回はクローズドマーケットにおける効果のみを試算したが、一定の経済効果も見込まれることから、オープンマーケットにおける経済効果の試算に対するこのモデルの適用可能性を検討することも必要である。オープンマーケットにおける経済効果の試算が可能となれば、リユースびん事業の適正な商圈を示すことや、雇用改善や経済効果を示すことが可能となると思料され、名古屋市と協働でのより具体的な施策の推進に繋がると考える。このことに加え、廃棄物削減効果、CO<sub>2</sub>削減効果等環境面における効果についても可視化していく必要があると考えている。